

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201008		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム 和らぎ・歓び		
所在地	山口県宇部市大字妻崎開作789-2467		
自己評価作成日	平成22年5月6日	評価結果市町受理日	平成22年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風の馴染みやすい空間で、内部も畳や自然木を多用した心地よい住環境になっており、その中で入居の皆さまがそれぞれのペースで自分らしい生活を送られています。食事は毎食手作りで季節感を取り入れたメニューを取り入れ、健康にも配慮したものを提供している。食事作りは入居の皆さまにもできることは参加していただき、皆で楽しく美味しく、食事に関わる時間を大切にしています。又家事なども本人のできることを尊重しながら、掃除、洗濯などを共に行っています。さりげない優しさでお互いが助け合うという理念の下で入居の皆さま、御家族、職員が協力し合い、入居の皆さまが安心して過ごしていただける、グループホーム作りに取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家庭的な雰囲気づくりを大切にしておられます。利用者は家事、特に3度の食事を中心に1日ゆっくりとした生活をされています。三食事業所で手作りされ、献立から食材の購入・調理・盛り付け・後片づけ等一連の作業を利用者と職員で共に行われ、一緒に食事をしながら食後もゆっくりと語り、笑いや楽しい時間を過ごされています。時にはレストランで食事をしたり、誕生会には家族を誘って外食をしたり、弁当を作って屋外で食べたり、食事を通して楽しみも工夫されています。職員は毎日CSTレーニングをして「さりげなく手をさしのべる」介護の実践に努め、利用者一人ひとりの暮らしに配慮し、利用者・家族の思いを大切に介護姿勢を徹底されています。また、毎年1回開催される法人内学術大会において介護の実践を発表するなど日常介護の学びを続けておられます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年5月31日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らしていただける様に入居の皆さま、職員、地域の方々が共にさりげなく助け合うという理念を作り上げている。	事業所理念を共有するため、ミーティング時に唱和し、毎日のCSトレーニングと3か月に1回全体トレーニングを行うなど、具体的な実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の広報誌などをまわしていただいている。又地域へ向けた発行紙(老人保健施設)にGHの紹介などを掲載している。	法人として自治会に加入している。馴染みの美容院や入居前から参加していた集会や敬老会に出かけたり、知人の面会、近所の農家の人が野菜を売りに来られたり、大学生のボランティアの受け入れや写真、踊りの発表会、クリスマス会への参加等の交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学などは常にできるようにしており、その際に支援方法や認知症高齢者の理解を高めていただける様に質問などに応じている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義を理解して改善点があれば運営者、管理者、職員で話し合い、よりよいホーム作りに励んでいる。	評価の意義を説明し、全職員にコピーを渡し、各ユニット毎に意見を出し合い、全体ミーティングでまとめて、職員のケアの振り返りとしている。前回評価結果の口腔ケアについても検討し改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告などで日頃どのような生活を送られているかお伝えし、又ひやりはっと事故報告なども行っている。意見交換を行いサービス向上に向けて取り組んでいる。	概ね2か月1回開催し、利用者の日々の暮らしや行事等を議題に話し合っている。ヒヤリはっと・事故報告等も行っている。地域住民のメンバーが少ない。	・近隣住民等メンバーの拡大
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加依頼や、医師の意見書などの情報提供を定期的に行うなどして、連絡を密にとっている。又、市から依頼された報告などは不明な点があれば連絡するなどして、御協力をいただいている。	市介護保険課の職員や月1回来訪する市介護相談員と法的手続きや介護保険の課題、情報交換等で連携をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について代表者及び全ての職員が理解し身体拘束をしないケアを心がけている。	法人の身体拘束委員会があり、内部研修で職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。又、今年度から事業所でも毎月研修する等、玄関の施錠を含め利用者が安心できるような声かけなど身体拘束をしないケアを実践している。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての園内研修などに参加し学んでいる。虐待に当たる事例がない様にお互いが注意している。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する入居の方がおられない為、学ぶ機会を設けていなかったが、今後は権利擁護の制度を理解し、活用できるように取り組みたい。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事に変更があった場合や解約の際は十分な説明を行っている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口を設け、フローチャートを作成している。	相談、苦情の受付窓口を設け、その解決マニュアルを作成し、入居時に本人、家族に説明している。職員は「苦情を宝」とする気持ちで声かけをし、本人や家族が気軽に意見や相談が出来る雰囲気づくりに努め、家族から出た部屋の清掃についての意見などを運営に反映させている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで上がった意見や提案は事務長や代表者にあげるようにしている。	職員が意見や提案を出せるように声かけをしたり、毎月の全体ミーティングで話し合い、出た意見を事務長や代表者に報告し、入浴介助や時間等の職員体制の改善に導くなど職員の意見を運営に反映させている。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、複数名による査定を行い、賞与等の給与にその結果を反映させている。また、平成21年10月より、介護職員処遇改善交付金を受給し、介護職員の賃金水準の改善を図っている。職員が段階的にキャリアアップを図れるよう、キャリアアップシステムの構築を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	毎月、認知症に関する勉強会を実施し及び法人内外の研修参加について、全面的に支援しております。また、年1回、法人内学術大会を開催し、日頃の取り組みの成果を発表する事で更なるサービスの質の向上に繋げている。	法人内・外研修を受ける機会を確保し、外部研修は、復命をして全職員が共有している。年1回の法人内学術大会で事業所として発表することで、介護の質の向上を目指し働きながらトレーニングをしている。新人の研修計画もあり、年間を通して実施している。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他のグループホーム職員と情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にアセスメントをとり、本人の嗜好、要望お聞きし、不安を取り除き、スタッフの関わりにより統一感、共通意識をもって信頼関係を築き上げていく事に努めている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にアセスメントをする際はご家族にもお話を聞き、御家族にお話を聞き、御家族の想いに耳を傾けている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各事業所とも連携し、本人にとってまず、どのような支援が必要かを見極めた上で入居の検討をしている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として学び、お互いが助け合って生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆が必要不可欠であることを入居時に説明し、できる限りグループホームへ足を運んでいただいたり、受診の付き添いをお願いしている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とも話をした上で、馴染みの面会者に会っていただいたり、長年馴染んだ場所にいけるようにしている。	家族等と相談しながら、利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係が途切れないように馴染みの面会者を受け入れたり、馴染みの店での買い物や利用前からの集会や敬老会の参加などの支援に努めている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で食事の席の検討など行っている。入居の方が孤立されないように職員も必要時入るなどして対応している。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもその後の関わりを大切にしてお話ししたり気軽にお願いいただける様に配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が日課としている(刺繍、家人の面会など)様々な生活を把握し対応している。	利用者がその人らしい暮らし方が出来るよう、入浴時の表情、生花の時の動作、刺繍をしながらの会話等に日常生活の中から希望や意向の把握に努めている。本人からの意向把握が困難な場合は、家族と話し合い、職員は様々な関わりの中で本人の思いの把握に努め本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式など活用し事前に本人や家族、以前のサービス事業所から情報収集を集めサービス経過時の把握に努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況を把握し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いて本人がより良く暮らすための課題をチームで話し合い介護計画を作成している。	センター方式を利用して、本人がより良く暮らすための課題とケアについて、本人・家族や医師等関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した計画を作成している。見直しは6ヶ月としているが変化が生じた場合は本人や家族と関係者で話し合い現状に即した新たな計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳しく記入し職員間で情報を共有している。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や本人の身体状況によっては受診に付き添ったり、外出支援を行ったりしている		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れている。又消防関係の訓練時等に相談助言をいただいている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に基づきかかりつけ医とも事業所が連携を取りながら適切な医療が受けられるようにしている。	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医や専門医との連携をとりながら、適切な医療が受けられるよう家族と協力して通院支援を行っている。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問の際、情報や気づきを報告、相談したり緊急時の際の連絡相談や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には医師、家族と相談し、本人がGHの生活に戻れるように支援している。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の意向にそえる様、かかりつけ医や医療訪問看護と話し合う方針を共有している。	重度化した場合の対応について、早い時期からその都度、家族やかかりつけ医、訪問看護ステーション等との話し合いをし、職員も方針を共有している。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故があった場合は必ず事故報告書を作成し、会議などでも取り上げ事故防止に取り組んでいる。又、勉強会を行い応急手当ができる様取り組んでいる。	事故発生やヒヤリはっと事例の報告書を作成し、その都度会議で取り上げ、ミーティングを行い対策を共有するなど事故防止に取り組んでいる。又、勉強会で応急手当が出来るように取り組んでいるが、実践力が身につくまでは至ってない。	実践力が身につく定期的訓練の実施
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い避難場所の確認や避難方法を職員が把握している。又運営推進会議等に地域の方々と災害時に協力していただける様に働き掛けている。	年2回消防署の協力を得て避難訓練(夜間想定を含む)を実施し、避難場所の確認や避難方法を把握している。運営推進会議で議題とし、地域の協力についても働きかけをしプリンターも設置している。また、災害に備えた食料、飲料水なども備蓄している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中でも入居の皆様の尊厳を持った言葉掛けを心がけている。	人前でトイレ誘導の声かけをする等、人格を傷つけることのないように、目立たずさり気ない言葉かけや対応に心がけている。他の家族や外来者に対し、職員が利用者のプライバシーに関する事を話さない事を徹底し、気付いた時には管理者が指導している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のできる事、やりたい事を見つけ家事を行っていただいたり、趣味活動を行っている。		

グループホーム 和らぎ・歓び

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、入浴時間や就寝時間などを希望に添えるように支援している。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧の声掛けを行ったり、外出の際に本人の嗜好にそった身だしなみで外出している。又御本人、御家族の希望の下理美容院を利用している。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを手伝っていただいたり、食事を作る楽しさを共有して楽しく食事を行っている。下膳が難しいという方に入居の方が手を貸してあげたり、洗い物を率先して下さったりする場面がある。	食が暮らしの原点という事を理解し、献立から食材の購入・調理・盛りつけ・後片づけ等一連の作業を利用者の力量に応じて職員と共に行い、一緒に食事をし食後もゆっくりと語り、笑い、楽しい雰囲気である。時にはレストランで、また、誕生会には家族を誘って外食をしている。弁当を作って屋外に出かけることもある。季節の食材を使い利用者の好みを献立に取り入れたり工夫している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、栄養のバランスを考え、又本人が必要な量や水分を把握できるよう食事量、水分のチェックを行っている。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、保管方法については、義歯洗浄剤を使用し、実施日や保管方法を取り決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表のチェック、記事等でパターンを把握し本人がトイレで気持ちよく排泄できるように努めている。	排泄表のチェックや個人記録等でパターンを把握し、本人が気持ちよくトイレでの排泄を可能にするため、本人の生活リズムに添った支援と使いやすいトイレの整備に努めている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし、多めに取っていただいたり、運動に誘う等して便秘対策に取り組んでいる。ご家族、訪問看護や医療機関とも相談して必要な方は下剤で調整行っている。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日お風呂を沸かしている。本人の体調把握し希望に添える入浴介助行っている。	毎日、13時30分から17時まで入浴出来る。利用者の希望やこれまでの生活リズムにあった時間、異性の入浴介助については利用者の表情を察知するなどして個別の入浴支援をしている。利用者の体調に合わせて、シャワー浴、清拭、足浴等にも対応している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なく落ち着いて眠れる様に不眠時には付き添ったり、温かい飲み物をお出しするなどして支援している。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人ひとりが内服の管理に関わり、目的用法、用量について理解できるように取り組んでいる。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事はその人それぞれの役割を持って行えるよう場面作りに取り組んでいる。	日々の暮らしが楽しみや張り合いのある過ごし方になるよう、食事作り、洗濯、掃除などの一連の家事分野で利用者一人ひとりの力を発揮できる場面づくり、ぬり絵や漢字テスト、刺繍、散歩、買い物など楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、誕生日会や花見など希望に沿った外出支援に努めている。	ラジオ体操の後の散歩は毎日の日課になっている。気分転換やストレス発散、五感の刺激の機会として誕生会の外食に家族を誘ったり、サーカスを見に行ったり、バラ園や江汐公園に行ったりと利用者の希望を聞きながら外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望や御家族でも話をし一人ひとりの状態に応じた金銭管理を行っている。</p>		
52		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や大切な人とのつながりが継続できる様に電話、手紙のやり取りを行っている。</p>		
53	(23)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木造の馴染みやすい空間の中、自然の光など取り入れ五感に働きかける環境づくりをしている。</p>	<p>カラオケセットが置かれ、広い廊下は車いすがゆったりと通ることができ、利用者の作品や写真が壁に飾られ、季節の花が生けられている。広いウッドデッキでは木や花を囲んで日光浴が出来、ソファーや椅子が自由な居場所になり、テレビを観たり、編み物をしたりとゆったりと過ごせる工夫をしている。</p>	
54		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>多目的ホール、居間等開放し、仲の良い方がゆっくり話をしたり、一人ひとりの快い場所が作られている。</p>		
55	(24)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭にあった馴染みのある物を持ってきていただき本人が快く過ごせる部屋づくりをしている。</p>	<p>木のぬくもりや障子越しの明るさの中で、家族と相談して写真や好みの飾りもの、馴染みの家具等を持ち込み、その人らしい部屋作りで安心して過ごせるよう配慮している。</p>	
56		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人のわかる力や慣れ親しんだ生活などを配慮しながら自室の環境を整えたり、混乱失敗を招く要因がないか点検している。</p>		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム和らぎ・歓び

作成日：平成 22年 8月10日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	41	食を通しての喜びをさらに広げていくことができないだろうか	食事をすることの喜び、食事時間の楽しみや交流を広げていく。	時にはユニット同士でお茶会やお食事会等交流の場を増やしていく。又、買い物に行く機会など増やすなどして食べる喜びだけではなく、素材選びや地域との交流などで楽しみを増やしていく。	3ヶ月
2	35	事故発生時の対応など、新人職員の不安がある	事故発生時の対応について知識だけではなく実践力も高めていく。	定期的に行っている訪問看護との勉強会や研修などで知識を高め、同様に実際に事故が発生した時の対応等定期的に訓練を行う。	6ヶ月
3	5	運営推進会議において地域の方々の参加が少ない	地域にもグループホームをアピールし、お互いが支えあえる環境の和を広げていく。	自治会や婦人会などに積極的に声を掛けていく。又ボランティアの受け入れなども行い、グループホームをもっと地域の方々に知っていたく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。